

# 社会科における予想と先行経験に関する調査研究 I

—— 発見的学習についての基礎的研究 ——

# 目 次

I 研究目的	1
II 研究方法	1
III 調査結果および考察	4
1 銀行預金の利子と民間放送の商業についての実態	4
(1) 銀行預金の利子について	4
(2) 民間放送の商業について	5
2 銀行預金の利子と民間放送の商業についての興味・関心の実態	5
(1) 銀行預金の利子について	5
(2) 民間放送の商業について	7
3 銀行預金の利子と民間放送の商業についての第1次調査	7
(1) 銀行預金の利子について	7
(2) 民間放送の商業について	12
4 銀行預金の利子と民間放送の商業についての先行経験について	15
(1) 銀行預金の利子について	15
(2) 民間放送の商業について	18
5 予想と先行経験との関係について	20
(1) 銀行預金の利子について	21
(2) 民間放送の商業について	21
6 銀行預金の利子と民間放送の商業についての第2次調査	22
(1) 銀行預金の利子について	22
(2) 民間放送の商業について	24
7 銀行預金の利子と民間放送の商業についての第3次調査	25
(1) 銀行預金の利子について	25
(2) 民間放送の商業について	26
8 ま と め	27
あ と が き	29
参 考 文 献	30

# I 研究目的

(1) この調査研究は、全国教育研究所連盟共同研究主題の一つ「発見的・創造的学習に関する研究」の一環として行なったものである。

この共同研究推進資料には、次のようにある。

「発見や創造には、予想が大切である。つまり、おそらくこうなっているのではなかろうか。こういうことが原則として考えられるのではなかろうか、こういう事実があるのではなかろうかという予想が立てられて、はじめて思考は進展し、新しい事実や原則が究明されるであろう。その際、最初の予想どおりでなく、予想外な事実や原則や傾向を見出すとき発見の驚きはさらに大きくなるであろう。このような予想は、人間の過去の経験や理解の累積の中から生まれる。いかえると、人間はその累積された経験や理解を地盤にして、一つの予想、見通し、仮説をたてるといえる。発見学習では、このような予想を立てる段階がきわめて重要な意味をもつものと思う。」

そこで、ここでは、上記の解説の中から、「社会的事象に関する予想と先行経験の関係」の部分を取り出し、その関係はどのようであるかを、あらためて分析究明してみたいと思うのである。

このことは、当然、発見的・創造的学習という一連の学習過程の中で問題にされなければならないことであるが、いまは、諸種の事情から、発見的・創造的学習とはどのようなものであるかの解明をさておき、予想と先行経験に関する部分のみを分析の対象としたいと思う。ただ、共同研究では、発見的・創造的学習の学習過程の基本を、問題の設定 → 仮説の設定 → 問題の追求 → 適用発展としていることを付け加えておきたい。(なお、ここで、「先行経験」とは、過去の経験や理解のことである。)

(2) 児童に社会的な問題を投げかけたときに、

○はたして、児童は、その問題解明のための予想をたてることができるであろうか。

○また、児童が予想をたてるときには、先行経験がどのように関与するであろうか。

○その問題解明のために、ある一つのヒントを与えた場合、それを学習経験として予想に生かすことができるであろうか。

○また、ヒントを、一回、二回と重ねていった場合に、予想は、どのように変容していくであろうか。

などを、主な研究の視点とする。

# II 研究方法

(1) 上述のような研究問題を究明するため、調査用紙による自由記述の方法をとることにした。調査用紙によって、この研究問題を究明することは、かなりの困難が予想され、あまり適切な方法であるとは考えられないのであるが、諸種の事情から、やむを得ずこの方法をとることにしたのである。

(2) さらに、上記のような研究問題を究明するためには、どのような調査問題を考案したらよいかも非常にむずかしい問題である。

これには、大別して二つの万途が考えられる。一つは、学年ごとに異なった調査問題を設ける方法であり、二つは、全学年共通の調査問題を設ける方法である。前者の方法をとると、学年の単元に即して調査問題を設けることができるが、学年間の発展的な段階などを明らかにすることができない。また、経験や理解の量や質の異なるいくつかの問題を対比して分析的に調査研究することができない。後者の方法をとると、直接学習の対象となる問題（指導要領の内容）を避けなければならない、実際の指導から遊離する危険がある。また、経験や理解の量や質の異なるいくつかの典型的な問題場面を設定するということが、ますます困難である。

この二つの方法のいずれをとるべきかしゅん巡した結果、後者の方法をとることにしたのである。すなわち、調査問題は、次の通りである。

### (3) 調査問題

#### ① 銀行預金の利子に関する問題——第1次調査

1 あなたは、銀行におかねをあずけると利子（利息）がつくことをしていますか。あてはまるものの（ ）に○をいれなさい。

( ) しています ( ) しりません

2 銀行におかねをあずけると、どうして利子がつくのでしょうか。たぶんこうではないかという考えでもいいですからかいてください。

3 あなたは、どういうことからそうにかんがえましたか。

4 あなたは、いままで、このようなことについてかんがえてみたいとおもったことがありますか。あてはまるものの（ ）に○をいれなさい。

( ) あります ( ) ありません

#### ——第2次調査

1 銀行におかねをあずけると、どうして利子がつくのでしょうか。銀行では、おかねをあずかったままにしていれば、すこしもふえません。このことから、どうして利子がつくのかをかんがえてごらんください。

#### ——第3次調査

1 銀行におかねをあずけると、どうして利子がつくのでしょうか。銀行では、おかねをあずかると、あずかったままにしないで、おかねをかりたい人にかしてやります。かわりに、かえしてもらうときは、かしたおかねよりよけいかえしてもらいます。この

ことから、どうして利子がつくのかをかんがえてごらんなさい。

(2) 民間放送の商業に関する問題——第1次調査

1 あなたは、BSN新潟放送<sup>ビーエヌエヌ ほうそう</sup>のテレビやラジオには、商業(こうこくやせんでん)<sup>エヌエツケイ</sup>がはいるけれども、NHKの放送には、それがはいらないことをしていますか。  
( )しています ( )しりません

2 BSN新潟放送のテレビやラジオでは、どうして、いろいろの商業がはいるのでしょうか。たぶん、こうではないかというかんがえでもいいですからかいてください。

3 あなたは、どういうことからそのようにかんがえましたか。

4 あなたは、いままで、このようなことについてかんがえてみたいとおもったことがありますか。あてはまるものの( )に○をいれなさい。  
( )あります ( )ありません

—— 第2次調査

1 BSN新潟放送<sup>ビーエヌエヌ ほうそう</sup>のテレビやラジオでは、どうしていろいろの商業(こうこくやせんでん)がはいるのでしょうか。「この番組<sup>ばんぐみ</sup>は、○○がおおくりしました」とか、「ていきょうは、□□でした」ということから、このことをかんがえてごらんなさい。

—— 第3次調査

1 BSN新潟放送<sup>ビーエヌエヌ ほうそう</sup>のテレビやラジオでは、どうして、いろいろの商業(こうこくやせんでん)がはいるのでしょうか。NHKでは、テレビをもっている家<sup>いえ</sup>からおかねをとりますが、BSNではとりません。かわりにこうこくやせんでんをする会社<sup>かいしゃ</sup>や店<sup>みせ</sup>からおかねをとります。このことから、どうして商業がはいるのかをかんがえてごらんなさい。

他に、「市の政治に関する問題」と「物の値段に関する問題」について調査を行なったが、ここでは、紙数の制約などのため掲載を省略することにする。

(4) 「銀行預金の利子に関する問題」も「民間放送の商業に関する問題」も、小学校の指導内容ではない。研究問題に即して、学年間の発達段階なども明らかにしてみたいと考えたので、いきおい、指導要領に示された内容以外のものから問題を選択することになった。その場合、できるだけ児童の生活に身近なもの、したがって、児童の問題意識にのほりやすいものとしてどのようなものがあるか

が大きな問題である。結局、その代表的なものとして、これらの問題を取り上げることにしたのである。

(5) 「銀行預金の利子に関する問題」も「民間放送の商業に関する問題」も、第1次調査から第2、第3次調査に至るにしたがい、徐々にヒントを加えて、予想をたてやすいように仕組んだ。このようなヒントが、一つの既習経験となって、問題解明の予想をたてるにあたって、どのように作用するかを見究めようとしたのである。しかし、前述のように、このような所作を、授業を通さず、調査用紙の上で行なおうとするには、非常な無理がある。このような調査問題で、表記の研究問題を解明することができるかということには、大きな疑問をもっているのである。

(6) 調査は、第1次調査から第3次調査まで、ほぼ1週間の間に行なわれた。たとえば、次のようである。月曜日、第1次調査実施。実施後、調査用紙回収。水曜日、第2次調査実施。実施後調査用紙回収。木曜日、第3次調査実施。実施後調査用紙回収。なお、これらの調査は、一切を各学級担任に依頼し、各学級で適宜行なわれた。もちろん、児童の質問等には応じないことにした。

(7) 調査の対象は、新潟市内のA小学校2年から6年までの全児童約500名である。各学年3学級編成。1年を対象外としたのは、自由記述に抵抗があると判断したからである。

在籍児童数

学年	2	3	4	5	6	計
人数(人)	112	88	91	111	105	507

### Ⅱ 調査結果および考察

#### 1. 銀行預金の利子と民間放送の商業 についての事実認知の実態

##### (1) 銀行預金の利子について

あなたは、銀行におかねをあずけると利子(利息)がつくことをしていますか。あてはまるものの( )に○をいれなさい。

( )しています ( )しりません

第1表

学年	2	3	4	5	6
回答					
しています(%)	15.1	49.4	75.8	80.5	91.2
しりません(%)	84.9	50.6	24.2	19.5	8.8

この回答のうち、4年のある一学級のみが、「しています」の回答31人中29人、その率93.5%で、非常に高率である。4年の他の2学級は、「しています」の回答率66%である。この一学級の高回答率のため、4年の「しています」の回答率は、かなり引きあげられる結果となった。なぜ、この学級のみ高率の回答になったかは、追

究しなかったので不明である。

銀行預金の利子について、児童がすでにどのような知識をもっているかを確かめておかなければならぬので、初歩的な実態調査を試みた。当初は、このような調査は不用かと考えたのである。調査するまでもなく、児童は、このことについて熟知しているものと予想したからである。ところが、表にあらわれているように、5、6年に至っても、全員がこのことを「知っている」わけではないことを知り、認識をあらたにした。

すでに、注釈を加えたように、4年の回答率に疑問があるが、全体としては、それは、学年が進むにつれて段階的に増加していくことがわかる。

## (2) 民間放送の商業について

あなたは、BSN<sup>エスエヌ</sup>新潟放送<sup>ほうそう</sup>のテレビやラジオには、商業（こうこくやせん）<sup>エヌエフケイ</sup>がはいるけれども、NHKの放送<sup>ほうそう</sup>には、それがはいることをしていますか。

( ) しています ( ) しません

第2表

回答 \ 学年	2	3	4	5	6
しています (%)	46.4	63.5	72.4	78.7	93.2
しません (%)	53.6	36.5	27.6	21.3	6.8

この回答のうち、2年、3年の各一学級ずつが、「しています」の回答率、他の学級に比べて非常に高い。すなわち、2年では、37人中35人、その率94.5%であり、3年では、28人中26人、その率92.8%である。2年の他の二学級の「しています」の回答率は、22.4%であり、3年の他の二学級の回答率は、49.1%である。なぜ、このように特定の学級のみ高率となったかは、調査していないので不明である。

銀行預金の利子同様、あるいは、それ以上に、テレビ等は、児童の日常茶飯事であるから、このような調査を行なうまでもないことと思こんでいたが、その実際は、表のような実態となり、予想外に民間放送の商業についての知識がないことを知る結果となった。しかし、これは、調査問題の「商業」というような用語に抵抗があったためであって、実際は、ほとんどの児童が、「しています」と答えることができたのではないかと推測されるのである。

ともかく、注釈したように、2、3年にそれぞれいくらかの疑問点があるが、全体の傾向としては、銀行預金の利子同様、学年が進むにつれて、「しています」の回答率は上昇していくことがわかる。

## 2. 銀行預金の利子と民間放送の商業 についての興味・関心の実態

### (1) 銀行預金の利子について

あなたは、いままで、このようなことについてかんがえてみたいとおもったことがあ

りますか。あてはまるものの( )に○をいれなさい。  
 ( )あります ( )ありません

第3表

回答 \ 学年	2	3	4	5	6
あります (%)	4 2.8	2 4.7	4 0.2	3 4.2	2 9.1
ありません (%)	5 7.2	7 5.3	5 9.8	6 5.8	7 0.9

この設問は、調査問題でもわかる通り、いちばん終わりに設けられているものであって、これらの問題に対して解決の予想をたてる場合、それらの問題に興味・関心をもつかどうかということが、どのように影響するかをべつ見してみようとしたものである。問題を解決しようとする、予想をたてる、それには、このような情意的側面が加わらなければならないと思われるからである。

しかし、このことの前に、「1 銀行預金の利子や民間放送の商業についての実実認知の実態」に関連して述べておかなければならないことがあるので、ここに取り扱うことにしたい。

銀行におかねをあずけると利子がつくことを「知っている」と答えているものと、このような問題に興味・関心が「ある」ものとの間には、強い関連がなければならぬと思われるが、この調査では、かならずしもそのようにはなっていないのである。たとえば、2年では、利子がつくことを「知っている」ものは、約15%に過ぎない。ところが、なぜ利子がつくのかということに興味・関心が「ある」ものは、約43%にのぼっている。いかえれば、利子がつくことを「知らない」ものが約85%あるにもかかわらず、利子の問題に興味・関心が「ある」ものは、約43%あるということである。常識的には、このことは矛盾していることである。その事実を知らないものは、そのことに関心・興味をいだきようがないはずである。これは、個々の児童の調査用紙にもはっきりあらわれていて、利子がつくことを知っているかという問いには「知らない」と答えていて、このような問題に興味・関心があるかという問いでは、「ある」と答えているものが、かなりあるのである。

このような矛盾は、3年でもみられ、4年からは、ほぼ解消してしまふ。

このような矛盾は、次のようにも解釈されると思う。この調査用紙の上で問題を与えられ、回答していくうちに興味・関心を持ちだした。あるいは、いま、この問題に答えている自分を、この問題に興味・関心をもっている姿と意識化して、「ある」と答えた。また、逆の場合も考えられる。この設問に答えているうちに、興味・関心を失うというようなことである。

以上のような疑問点については、当然、追跡的な分析調査が必要なのであるが、諸種の事情でこれを省略しているから、これら一連の調査の欠陥、あるいは、あいまいさは、このような形にもなってあらわれているといえるわけである。

なお、この設問についての回答率の間には、とりたてていふほどの学年間の傾向性といったものはみられないといえる。ただ、わずかに、どの学年においても、銀行預金の利子について関心をもったことの「ない」ものが、「ある」ものをしのいでいる。しかも、前述のようなこの調査のあいまいさを勘案すると、むしろ、高学年において、この問題に興味や関心をもったことのないものが多いということが



いえる。このことは、いささか予期に反することであって、やはり、学年が進むにつれて、これらの問題に対する興味・関心は高まるものと想像していたのである。もっとも、この設問の性質上、数字にあらわれたものをうのみにするのは危険であって、前にも触れたように、低学年の児童の「ある」という答の質と高学年の児童のそれとは異なっていることに注意しなければならない。この意味では、この設問の回答からは、あまり決定的なことはいえないというべきであろう。

## (2) 民間放送のコマーシャルについて

あなたは、いままで、このようなことについてかながえてみたいとおもったことがありますか。あてはまるものの( )に○をいれなさい。  
 ( )あります ( )ありません

第4表

回答 \ 学年	2	3	4	5	6
あります (%)	26.7	54.1	59.7	50.0	47.5
ありません (%)	73.3	45.9	40.3	50.0	52.5

この回答のうち、3年のある一学級のみが、「あります」の回答28人中22人、その率78.5%の高率である。他の二学級は、40%。前述の調査同様、その原因は、不明なままである。

銀行預金の利子の項で述べたような疑問は、やはり、この場合にも当てはまる。NHKの放送には、コマーシャルがはいらぬことを「知っている」と答えているものと、このような問題に興味・関心が「ある」ものとの間には、いくらか矛盾した回答の相関がみられるのである。もちろん、「知っている」と答えているもののすべてが、関心が「ある」と答えなければならないわけではない。「知っている」ものでも、関心が「ない」かもしれない。この二者の相関を分析するのが本論の主要な課題ではないので、正確な数的処理を行なったわけではないが、前述のような矛盾した回答は、4年で、なお、約2割ほどあり、5年から、ほぼ解消されるのである。

注釈を加えたように、3年の回答にいくらかの疑問が残るが、銀行利子同様、これらの学年間の回答の間には、特別の特徴や傾向性がみられない。銀行預金の利子との対比においてみると、興味・関心をもっているものが、かなり多いといえる。このことは、児童の生活経験の上からみて首肯されることである。

## 3. 銀行預金の利子と民間放送のコマーシャル についての第1次調査

### (1) 銀行預金の利子について

銀行ぎんこうにおかねをあずけると、どうして利子りしがつくのでしょうか。たぶんこうではないかという考えでもいいですからかいてください。

前の設問で、「銀行におかねをあずけると利子がつくことを知っているか」を問うたとき、「知っている」と答えたものが、「どうして利子がつくか」に回答できるのは当然として、前の設問で、「知らない」と答えたものの中にも、この問いに答えているものがかかなりあるのである。理論的には、後者は無視してよいと思われるが、しばしば繰り返し述べるように、児童を対象にしたこの種の調査の不完全さを考え合わせて、ここでは、いちおう、前問で、「知っている」と答えたものと「知らない」と答えたものの二群に分けて考察したいと思う。

① 銀行におかねをあずけると利子がつくことを「知っている」と答えたものの利子のつくわけ  
第5表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	利子のメカニズムを理解しているもの	0人	3	10	5	16
	あるいは、それに気づいていると思われるもの	0%	7.1	15.2	5.7	17.0
b	ただ、利子がつくという事実を繰り返し述べるにとどまっているもの	8	5	12	13	9
		47.0	11.9	18.1	14.9	9.5
c	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	3	29	41	62	59
		17.6	69.1	62.2	71.5	62.9
d	回答が要領を得ず、判読できないものなど	6	0	0	3	2
		35.4	0	0	3.4	2.1
e	無答	0	5	3	4	8
		0	11.9	4.5	4.5	8.5

その回答例は、およそ次のようである。

a <3年> 例1：銀行におかねをかりにくる人が、銀行におかねをあずけている人のおかねが、その人がおかねをかしてくださいと行ってかえすとき、かりたおかねより、少し多くもってくるから、かしたひとがおかねをあずけているところへ少ししたしてやることを利子がつくと思います。

<4年> 例1：銀行へお金をあずけると、銀行の人がどこかへお金をかしてそのぶん利子がつくと思う。

<5年> 例1：銀行にあずけたおかねをほかの人にかし、その人からりしをもらったから。

<6年> 例1：銀行は、お金をあずかるだけでなく、かりたい人に、これをかすこともすると思う。お金をかりた人は、そのおれいとして、かりたお金の何十分の一かをおいて

いく。そのお金を銀行の人がじょうずにわけ利子にするとする。

例2：あずけたお金で、人々にお金をかして、かしちんとしてかした人からかしたお金より多くもらって、それをあずけた人にかしちんとしてやる。

b<2年> 例1：おかねがたくさんたまるから。

例2：おかねがたくさんぎんこうにあずかってもらうと、おかねもふえるし利子もふえる。

<3年> 例1：お金をあずけたので、お金が一年にいくらと利子がつくのです。

<4年> 例1：ずっとお金を銀行にちよきんしていると、りしが多くなります。

<5年> 例1：銀行におかねをあずけると、ためた分より少しずつおかねがたまっていく。だから銀行にあずけるととくをするということ。

c<2年> 例1：せつかくつんだのを、なんでもりしがつかないとそんだから。

例2：ぎんこうは、おかねをあずけるところだから、よその人のおかねをなくしたり、かじになつたりするとわるいから、りしをつけます。

<3年> 例1：ぎんこうに長くあずけておくと、それだけぎんこうのしんようが高くなるから、そのおれいにりしをつけるんだと思います。

例2：もし銀行におかねをあずけた人がきておかねをかえしてくださいといっても、銀行にこの人はほんとうにあずけましたというしょうこがないとかいせません。

<4年> 例1：毎月とはきまっていますけど、いつもぎんこうへいくと、ありがとうというしだとおもいます。

例2：金をふやさないとあずけないから。

<5年> 例1：銀行というのは、お金をあずけるだけでなく、ふやしていくのにもやくだてるのにあると思う。

例2：ながく銀行にあずけるともうかるから、そのおれいにすこしずつすこしずつあずけたお金がふえていくとおもう。

例3：しゃいんにきゅうりょうをはらわなければならないとあずけた人のお金をつかうので、そのかわり利子がつくとおもったからです。

<6年> 例1：おさめてもらっているのだから、半年たったらそれにたいしてのりしがつかねばならないというきまりがあるから。

例2：ただお金をあずかるわけにはいかないから。

例3：たぶん、この銀行を使ってくださいますとありがとうございましたというようなお礼だと思ひます。

回答第5表には、たとえば、学年間の発達段階などをとりあげても、あまり顕著な特色がみられない。

利子のメカニズムの理解というのは、銀行がお金をあずかるだけでなく、貸付けるということを知っているといった程度のことをさしている。この理解は、6年では確かに高いが、4年もほぼ同率である。ただ、これらの回答は、文章表現されたものを分類し、数量化したものであるから、この数字の上で何かを即断することはできない。その理解の深浅は無視されていて、数字の上からそれを読みとることはできない。これらの例文から判断する限りでは、6年の児童の理解が、他の学年に比べて、一層確かなものであることはまちがいない。

利子のメカニズムを問われて、ただ利子がつくという事実を繰り返し述べるにとどまったものが、2年を除き、各学年ほぼ同数。ことばをかえていえば、高学年においても、かなり的人数にのぼったのであり、このことは、いささか予想外のことであった。

各学年とも、利子の一面的、あるいは表面的な理解にとどまっているものが半数以上である。「お金をあずけるとお礼に利子がつく」とか、「サービスだと思う」とか、「人々をひきつけるため」とかいう回答が典型的なものである。

さらには、「銀行のあずかりちんとして利子をつける」のように、自分自身の回答の論理の矛盾に気づかないものもある。次の例のように整理されている回答は、まれなのである。

<6年> よくわからない。利子がつかなければ、銀行にお金をあずけないで、家でちょ金する人が多くなるから。しかし、その利子のお金は、どこからくるのだろう。

ここで、「どうして利子がつくのでしょうか」という問いを、その「メカニズム」を問うものと決めてかかったのであるが、考えてみると、はたして、児童が、このように受けとるものかどうか疑問でもある。表面的とした「お礼に利子がつく」などという回答も、正しい反応といえなくはない。このように問いかけ自身に問題が残るが、いまは、いちおう、上述のような分析に従っておくことにする。

② 銀行におかねをあずけると利子がつくことを「しらない」と答えたものの利子のつくわけ

第6表 [注] 少人数なので、割合を示さず、実数のみ示す。

回答類型	学年				
	2	3	4	5	6
a 利子のメカニズムを理解しているもの あるいは、それに気づいていると思われるもの	18	0	1	1	1
b ただ、利子がつくという事実を繰り返し述べるにとどまっているもの	0	0	1	1	0
c 一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	52	30	10	15	4
d 回答が要領を得ず、判読できないものなど	6	0	0	1	1

e	無答	36	13	9	3	3
---	----	----	----	---	---	---

この回答のうち、特に人数の多いC類型についてのみ例を示せば、およそ次のようである。

c <2年> 例1：なん日もなん日もあずけておくのは、あずけた人にたいへんだからりしをつける。

例2：おかねをうけとったしるしだと思ひ。

<3年> 例1：だいじなものをあずけてなくされるとこまるから利子がつくと思ひます。

例2：銀行でお金をやると銀行の人がお金をあずけてもらってありがたうといひて利子をつけてくれる。

<5年> 例1：銀行は、政ふが国民がゆたかにくらせるために、りそくをつけたり金をかせたりするのでは？

<6年> 例1：あずけて、まん一そのあずけたお金があぬすまると、そのりしによつてそのお金があもどつてくる。

これらの回答例にみられるように、「しらない」と答えているものの回答は、「しっている」と答えているものに比べて、特別変わった傾向を示しているわけではない。

そこで、①第5表と②第6表とを合計した表を載せると次のようである。

第7表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	利子のメカニズムを理解しているもの	1人	3	11	6	17
	あるいは、それに気づいていると思われるもの	1.0%	3.5	12.6	5.6	16.5
b	ただ、利子がつくという事実を繰り返して述べるにとどまっているもの	8	5	13	14	9
		7.1	5.9	14.9	12.9	8.7
c	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	55	59	51	77	66
		49.1	69.4	58.7	71.3	61.2
d	回答が要領を得ず、判読できないものなど	12	0	0	4	3
		10.7	0	0	3.7	2.9
e	無答	36	18	12	7	11
		32.1	21.2	13.8	6.5	10.7

(2) 民間放送の<sup>ビエヌエヌ</sup>コマーシャルについて

B S N新潟放送のテレビやラジオでは、どうして、いろいろのコマーシャルがはいるのでしょうか。たぶんこうではないかというかんがえでもいいですからかいてください。

銀行預金の利子の場合同様、この前の設問で、「知っている」と答えたものと「知らない」と答えたものを分けて集計し、考察したいと思う。なお、この設問では、番組を提供している会社等のコマーシャルと、コマーシャルのみを放送しているものとを区別していないので、回答もこの二者が入りまじった。その分類には、多分に主観がはいるり、厳密さを欠く結果になったと思う。

① B S N新潟放送の放送には、コマーシャルがはいることを「知っている」と答えたもののコマーシャルのはいるわけ

第8表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	コマーシャルのメカニズムを理解しているもの、あるいは、それに気づいていると思われるもの	1人	2	6	9	30
		1.9%	3.7	9.5	10.6	31.2
b	ただ、コマーシャルがはいるという事実を繰り返し述べるにとどまっているもの	6	7	1	1	0
		10.5	12.7	1.6	1.2	0
c	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	31	40	52	74	65
		60.8	74.4	82.6	87.0	67.7
d	回答が要領を得ず、判読できないものなど	11	5	3	0	0
		21.1	9.2	4.7	0	0
e	無答	3	0	1	1	1
		5.7	0	1.6	1.2	1.1

その回答例は、およそ次のようである。

- a <2年> 例1：NHKは、ほくたちにおかねをとると、B S Nはコマーシャルでおかねをとる。  
 <3年> 例1：B S Nのほうそうにおみせやさんがおかねをはらって、テレビをだしてくださいとおみせのコマーシャルをテレビにだしてやる。  
 <5年> 例1：NHKは、どこかの会社がスポンサーをやってなく、国の人たちがお金をだしあっているから、わざわざよその会社のせんでんをしなくてもよい。  
 <6年> 例1：NHKは、お金をもらって放送しているが、B S Nは、そのコマーシャルをして

いる会社からお金をもらって放送しているから、コマーシャルがはいると思う。

例2：BSNなどの番組は、スポンサーがお金を出しているから、そのスポンサーは、コマーシャルするためにお金を出している。スポンサーは、テレビで、コマーシャルをしないことにすれば、BSNの番組もなりたたない。

例3：BSNは、民間放送なので、視聴者からはお金を取らず、スポンサーからもらうので、そのスポンサーの会社や商店をせんでんするためにコマーシャルを入れる。

b<2年> 例1：みんなにコマーシャルをおくりだす。

c<2年> 例1：もっともっとられるように。

例2：あんまりマンガやドラマばかりやっているとつかれるから。

<3年> 例1：NHKは、にちじょう生活にてきしていて、BSNは、だんらんでたのしむので、コマーシャルをのせると思う。

例2：NHKの放送は、コマーシャルがないので、BSN新潟放送でコマーシャルをやれば、ちょうどいい組になるので、コマーシャルを出しているのだと思います。

<4年> 例1：BSNのほうがたくさん見る人がいるからと思います。

例2：NHKは全国をつうじてやっている放送だけれども、BSNは、新潟県のテレビ放送だからコマーシャルがはいると思います。

<5年> 例1：BSN新潟放送は、NHKの放送より番組がドラマやまんがが多いからだと思う。

例2：BSNには音楽やまんがなどあり、コマーシャルするところが1、2分あり、たくさんあいているから入れている。

例3：新潟の放送だから、NHKの放送とちがうふうにやると思う。

<6年> 例1：BSNやNHKぜんぶの放送にそうゆうコマーシャルなどがはいては、見ている方もいららするので、BSNなどにはいて、コマーシャルをやる人たちにもつごうよいようにしていると思う。

例2：NHKは、ためになるほうそうで、BSNは、たのしむばんぐみだから。

例3：NHKは、全国ほうそうで、BSNは地ほうほうそうだから。

この回答で、非常に特徴的なことの一つは、6年になると約 $\frac{1}{3}$ の児童が、コマーシャルのメカニズムといったものを理解している、あるいは、それに気づいていると判断されることである。しかも、2年～5年の児童に比べて、6年になると、急激にそれが増加するのである。なぜ、このように急激な変化が起きるかは不明である。なお、ここで、コマーシャルのメカニズムといているのは、番組を提供する、そのかわりにコマーシャルをするといった程度の理解をさしている。

全体的な傾向としては、低学年ほど、この設問を前の設問と関連したものとして受け取ることができず、したがって、NHKとの対比でBSN新潟放送を考えることができないということがある。この傾

向は、この設問に限ったことではなく、低学年児童の特性でもあるので、やむを得ないことといわなければならない。

このように、この設問を独立した一つの問いかけとして受けとるから、一面的、あるいは表面的と解釈される回答が目につく。なぜ、NHKにはコマーシャルがはいらないのにBSN新潟放送には、それがいいるのかという問いに対して、「もっともっとうれるように」とか、「いろいろのものを買ってもらうために」とか、「会社のせんでんのために」とかいう回答が比較的多い。NHKとの対比において答えなければならないのだから、この回答では不十分である。「会社のせんでんのために」と答えるものには、なぜ、NHKではそれをしないのかを再び問い返さなければならない。

次に、学年が進むにしたがい、BSN新潟放送は、NHKに比べ、娯楽中心の番組が多いということが強く意識され、このこととコマーシャルを結びつけようとしているものが目につくのも、一つの傾向である。例示したように、「BSNは、だんらんでたのしむので、コマーシャルをのせる」とか、「ドラマやまんがが多い」とかである。これも、「おもしろい番組だから」ということとコマーシャルとが結びつく必然性が問い返されなければならないはずなのである。

同様のことが、高学年に比較的多い「NHKは全国放送で、BSNは地方放送だから」という回答においても、吟味されなければならない。

② BSN新潟放送の放送には、コマーシャルがはいることを「知らない」と答えたもののコマーシャルのはいるわけ

第9表 〔注〕少人数なので、割合を示さず、実数のみ示す。

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	コマーシャルのメカニズムを理解しているもの、あるいは、それに気づいていると思われるもの	0人	0	0	0	0
	ただ、コマーシャルがはいるといふ事実を繰り返して述べるにとどまっているもの	3	1	0	1	0
	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	41	17	19	20	7
	回答が要領を得ず、判読できないものなど	14	6	2	1	0
	無答	2	7	3	1	0



a 類型の回答は、各学年ともまったくない。特に人数の多いc 類型についてのみ例を示せば、次のようである。

- c <2年> 例1：ホテルやりょかんによく人がくるようにするため。  
 例2：コマーシャルがないとおもしろくないから。
- <3年> 例1：一つのコマーシャルばかり見ているとあきるから、いろいろなコマーシャルがはいっているのかなと思いました。
- <4年> 例1：ばんぐみで、コマーシャルのはいるものはこっち、コマーシャルのはいらぬものはこっちとわけてあると思う。
- <5年> 例1：NHKの放送は、見てためになるのに、ばかげたコマーシャルをだしたりするとへんだからと思う。

これらの回答例にみられるように、「しらない」と答えているものの回答には、「知っている」と答えているものの回答に比べて、特別特色のある傾向があるわけではない。

そこで、①第8表と②第9表とを合計した表を載せると次のようである。

第10表

		学年				
回答類型		2	3	4	5	6
a	コマーシャルのメカニズムを理解しているもの、あるいは、それに気づいていると思われるもの	1人 1.0%	2 2.4	6 6.9	9 8.3	30 29.1
	ただ、コマーシャルがはいるといふ事実を繰り返して述べるにとどまっているもの	9 8.0	8 9.4	1 1.2	2 1.8	0 0
b	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	72 64.2	57 66.0	71 81.6	94 87.0	72 69.9
c	回答が要領を得ず、判読できないものなど	25 22.3	11 12.9	5 5.7	1 1.1	0 0
	回答	5 4.5	7 9.3	4 4.6	2 1.8	1 1.0

#### 4. 銀行預金の利子と民間放送のコマーシャル についての先行経験について

##### (1) 銀行預金の利子について

あなたは、どういうことからそのようにかんがえましたか。

この設問は、利子のつくわけを回答した根拠を問いたたそうとするものであって、回答に先行経験がどのように関与したかを明らかにしようとしたのである。

設問に当たっては、このような形で自由記述させるべきか、選択肢を設けて選択させるべきか迷った。当初、この調査を中学校生徒にも実施する予定であったので、予備調査では、小学校5年を選び、自由記述の形で実施してみた。その結果、およそ所期の回答を得ることができたので、本調査においても、自由記述の方法をとることにしたのである。なお、多少の不安があったが、いずれにしても一長一短であり、いまの場合、選択肢の欠点の方がより強く意識されたのである。しかし、実施した結果は、この設問が、「どうということから」というような抽象的で、しかも、ばく然としたものであったため、特に2年では、期待するような回答が得られずにしまった。また、記述された回答の読みとり、その分類に当たっても、回答があいまいになったため、どうしても主観のはいる余地が多くなり、厳密さを欠いた。このようなことから、やはり、選択肢を設けるべきであったかと反省している。

なお、結果の処理に当たっては、すでに「利子のメカニズムを理解しているもの、あるいは、それに気づいていると思われるもの」とその他のものとに分けるなどして、そのそれぞれについて、その回答の根拠になったものは何かを分析するようにすべきであるが、先述のような調査およびその処理のあいまいさを考え合わせ、一括して分析・考察することにしたのである。

第11表

	回答類型	学年				
		2	3	4	5	6
a	テレビで見たことがある、話を聞いたことがあるなど	4人	13	16	22	22
		3.6%	15.3	18.4	20.4	21.4
b	実際に経験したことがある	12	12	10	17	13
		10.7	14.1	11.5	15.7	12.6
c	自分で想像した	40	33	48	56	54
		35.7	38.8	55.2	51.9	52.4
d	回答が要領を得ず、判読できないものなど	21	2	1	0	0
		18.8	2.4	1.1	0	0
e	無答	35	25	12	13	14
		26.3	22.4	13.8	12.0	13.6

その回答例は、およそ次のようである。

a<2年> 例1：きんごうのえいがをみたので、そのようにかんがえました。

例2：おかあさんにちいさいとききいたことがあって、いまでは、このようにおぼえて

いるから。

- <3年> 例1：テレビで「きもったまかあさん」ででた。  
例2：おかあさんからきいたような気がします。  
例3：いま、いえをたてるけいかくをしているから、その話をききました。
- <4年> 例1：テレビで、ときどき、どろぼうがはいったというほうそうをしているときがある。  
例2：ともだちが銀行の話をしてたから。
- <5年> 例1：テレビで、銀行のお金に、何かしるしみたいなものがついてると、テレビ放送の事件ものでやっていたから。  
例2：父や母が、ときどきそのようなことを話しているの。
- <6年> 例1：あるとき、銀行からおかねをかりたら、りしをつけてかえすということをきいたことがあるから。  
例2：母が、銀行に一千万円くらいおさめて利息でくらしていきたいといたから。  
例3：何かの本でみたから。

- b<2年> 例1：おかあさんとぎんこうにいったときから。  
例2：ぎんこうにちょきんをしたら、ちょきんつうちょうにてをさして、「これですよ」といたから。
- <3年> 例1：銀行へお金をあずけるとき、銀行の人がにこにこして、すこしたって見るとお金がたくさんになっているから。  
例2：わたしは、銀行におかねをあずけているから、銀行におかねをもっていくときに利子がついているからです。  
例3：わたしがこのまえ2000円をぎんこうにもっていったとき、うけもちの人が、おかねをもって行って、ちょきんばこみたいなところにいれたからです。
- <4年> 例1：ほくは、ぎんこうにちょきんをしているからしっています。  
例2：家で銀行やさんがくると、利子・利息とかへんなことをゆって行くから。
- <5年> 例1：お正月に行くと、いつもりしのすうじをつけるから。  
例2：自分のちょ金通帳などを見ると、ちょきんをしなくても、1円や2円ぐらいつづふえていくので、そういうことからです。
- <6年> 例1：ほくも、ちょ金をして利子がついた。そして、ちょ金をすると、ひとりで利子がついてくるとわかり、それから、ますますためるようになったから。  
例2：この前、母といっしょに銀行へ行つたとき、「お金は何日までにかえすこと、かりちんとして何万円はらうこと・・・」というのがきこえたから。

- c<2年> 例1：たぶんそうだと思ってかきました。  
例2：わたしがちいさいときから、こうおもっていました。  
例3：いまのはなし(注・調査問題をさす)をきいてかんがえました。

- <3年> 例1：ふあっと頭にうかんできた。  
 例2：お金をあずけたとき、かみになにかかくから、そうだと思った。
- <4年> 例1：あたまの中でそうぞうしてだした。  
 例2：よくわからないが、銀行のことを「こうだな」と思いながら。  
 例3：あには、お金をためています。あにをみていると、そのように思えたからです。
- <5年> 例1：たぶんこうではないかということです。  
 例2：マーケットなどでは、50円、100円かうと、けんなどをくれるから、そのかわりに利子をつけてくれると思う。
- <6年> 例1：銀行のもうけを考えて。  
 例2：高利がしなどからお金をかりれば、やはり利子がつくというのをテレビで見て、少しはしくみがにていると思ったから。  
 例3：銀行でお金をもっていて、それで利子をつけてかえすということは不可能なので、どこかからお金をえんじょしてもらっていると思ったから。

これらの回答には、たとえば第11表の学年間の発達段階などをみても、特別の傾向性というものはみられない。それぞれの回答類型が、各学年ほぼ同じ割合で分布している。ただ、先にもあらかじめ述べたような原因から、2年、3年では、d類型およびeタイプの回答が多く、その分だけc類型、すなわち、「自分で想像した」回答が減少している形となった。4年～6年の回答傾向は、ほぼ同一であって、「テレビで見たことがある、話を聞いたことがある」などから回答しているものが約20%、自分で「実際に経験した」ことをもとにして回答しているものが約13%、「自分で想像した」回答が約50%、そして、回答なしが約13%である。

このようにして、a類型およびb類型のような、間接的あるいは直接的な経験をよりどころにして、利子のつくわけを考えようとしたものは、2年約14%、他の3年～6年では、約30%～35%であったのである。

なお、児童の回答例で特徴的なことは、6年になると、いくらか論理的にそのメカニズムを分析追求しようとする芽がみえてくると思われることである。

## (2) 民間放送のコマーシャルについて

あなたは、どういうことからそのようにかんがえましたか。

この設問の主旨は、銀行預金の利子の場合同様である。また、この設問の不備や結果の処理の方法も、銀行預金の利子の場合同様であるので、繰り返さない。その結果は、次の表のようである。

第12表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	テレビで見たことがある、話を聞いた	8人	5	5	4	25
	ことがあるなど					

		7.1%	5.9	5.7	3.7	24.2
b	実際に経験したことがある	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0
c	自分で想像した	8.8	6.7	7.5	9.8	7.5
		7.8.2	7.8.8	8.6.3	9.0.7	7.2.9
d	回答が要領を得ず，判読できないものなど	9	3	0	0	0
		8.0	3.5	0	0	0
e	無答	7	1.0	7	6	3
		6.7	1.1.8	8.0	5.6	2.9

その回答例は，次のようである。

a < 2年 > 例1：おかあさんが，NHKは，おかねをはらっているからコマーシャルがないといつたから。

< 4年 > 例1：おとうさんから聞いた。

< 5年 > 例1：テレビを見ていて，NHK放送にはせんでんなどがないので，ふしぎに思って母に聞いてみました。

< 6年 > 例1：前になにかでよんだかきいたときがあるから。

例2：5年生のとき，先生から習ったことがある感じがしたからです。

c < 2年 > 例1：このはなしをきいて心の中でかながえました。

例2：BSNとNHKとほうそうきよくもちがうし，なまえもちがうから。

例3：ばんぐみのいいところでコマーシャルがはいるとみんながたのしみにするから。

< 3年 > 例1：ただ，じぶんでかながえました。

< 4年 > 例1：いま頭にうかんだこと。

例2：いつもテレビを見ているから，しぜんにおぼえた。

< 5年 > 例1：テレビを見ていると，ときどきそういう考えがうかんでくるのです。

例2：毎日見ていると，だんだんわかるような気がする。

< 6年 > 例1：新聞などをみても，そのようにしてやっているようだから。

例2：NHKは，そのせんでんやこうこくをはじめからことわっておくのではないかと  
思う。

例3：放送するにもお金があるので，そのお金はどこから出ているかということを考えて上のような考えができました。

第12表の回答は、銀行預金の利子の回答に比べて大きな特徴をもっている。

その一つは、b 類型「実際に経験した」ことから、なぜ民間放送にはコマーシャルがはいるのかを答えているものが、各学年ともまったくないことである。しかし、このことは、当然のこととも考えられるのである。確かに、テレビは、児童にとって銀行より、より身近である。テレビは身近であるが、そのコマーシャルは、決して身近ではない。銀行預金の利子は、児童自身が銀行に行つて預金するとか、通帳に利子のついているのを見るとかいうことができる。それに対して、テレビのコマーシャルは、児童にとっては、まったく受身である。こういう意味で、児童の経験という面からみれば、銀行預金の利子とテレビのコマーシャルとは、いくらか異質なものといわなければならない。したがって、b 類型「実際に経験した」ことをもとにして回答しているものが皆無となつても不思議はないということになるのである。

その二つは、a 類型「テレビで見たことがある、話を聞いたことがある」などの回答が、6年のみ約24%の高率を示し、他の学年では、約4%～7%であることである。これは、その原因が不明である。

その三。この設問は、前の設問に対する回答に対して、どのようなことを根拠にして、そのような回答をしたかを問うているものである。ところが、かなりの児童が、前の設問、つまり、なぜコマーシャルがはいるのかに対すると同じような次元での回答を繰り返しているのである。いま、4年と5年の例をあげれば、次のようである。

- <4年>
- なぜ、コマーシャルがはいるか。—そのコマーシャルの時間のとき、フィルムをかえるのでないかと思う。
  - どういうことから、そのように答えたか。—コマーシャルは、あまり時間がながくないから。
- <5年>
- なぜ、コマーシャルがはいるか。—BSNには音楽やまんがなどあり、コマーシャルするところが1、2分あり、たくさんあいてるから入れている。
  - どういうことから、そのように答えたか。—NHKなどでは、テレビでもラジオでも、ばんぐみがびっしりしているから。

結局、これは、前述のように、設問の不備に帰するのであって、「どういうことから」そのように考えたかは、予期に反して、「どのような論理的根拠で」そのように考えたのかと受けとられてしまったのである。このような受けとられ方が、銀行預金の利子の場合よりはるかに多かったということになる。

## 5. 予想と先行経験との関係について

銀行預金の利子についても、民間放送のコマーシャルについても、先の調査によって、直接的、あるいは、間接的な経験にもとづいて回答しているもののあることがわかった。しかし、これらの児童が、正しい予想をたてることができたかどうかは、まだ不明である。先行経験が正しい予想につながることを即断することはできない。そこで、先行経験にもとづいて回答している児童の実態を分析してみよう

と思う。

(1) 銀行預金の利子について

① テレビで見たことがある，話を聞いたことがあるなど

第13表 [注] 少人数なので，割合を示さず，実数のみ示す。以下第15表まで同じ。

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	正しい予想をたてているもの，あるいは，それに準ずるもの	1人	1	5	5	9
b	事実を述べるにとどまっているもの	0	4	4	4	3
c	一面的なもの，あるいは，誤っているもの	2	8	7	13	10
d	回答が要領を得ず，判読できないものなど	1	0	0	0	0

② 実際に経験したことがある

第14表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	正しい予想をたてているもの，あるいは，それに準ずるもの	0人	2	3	1	3
b	事実を述べるにとどまっているもの	4	3	1	3	3
c	一面的なもの，あるいは，誤っているもの	8	5	6	13	7
d	回答が要領を得ず，判読できないものなど	0	2	0	0	0

第13表および第14表でわかるように，間接的な経験にもとづいて予想をたてているものも，直接的な経験によって予想をたてているものも，その予想は，繰り返し事実を述べるにとどまるか，一面的，表面的なもの，あるいは，誤ったものになっているかであって，正しい予想をたてているものは数少ない。

(2) 民間放送のコマーシャルについて

① テレビで見たことがある，話を聞いたことがあるなど

第15表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	正しい予想をたてているもの、あるいは、それに準ずるもの	1人	0	3	3	18
b	事実を述べるにとどまっているもの	0	0	0	0	0
c	一面的なもの、あるいは、誤っているもの	7	5	1	1	7
d	回答が要領を得ず、判読できないものなど	0	0	0	0	0

② 実際に経験したことがある

第12表にあるように、この項に該当する児童はない。

第15表は、銀行預金の利子の場合同様、正しい予想をたてているものが少ないことを示している。ただ、6年のみ、間接的な経験をもっているものの約 $\frac{3}{4}$ の児童が、正しい予想をたてているのである。

以上、間接的、直接的先行経験が、かならずしも正しい予想に結びつかないことをこの調査は明らかにした。しかし、このことは、きわめて当然のことともいえる。この場合の「問題」は、その社会的現象の底にあるメカニズムを究明させようとするものであるから、「直接的経験」によって解明されるような性質のものではない。むしろ、ここでいう「間接的経験」によって理解させる可能性の方が、より多いというべきであろう。

銀行預金の利子の場合、「実際に経験した」ことをもとにして、「正しい、あるいは、それに準ずる」回答をしているものがあるが、その回答の内容をみると、たとえば、3年では

例1：銀行の中にはいったことがある。

例2：わたしは、銀行におかねをあずけているから、銀行におかねをもっていくとき利子がついているから。

のようであって、このようなことから、利子のメカニズムを理解するなどということは、不可能なことであると考えられるのである。児童は、「銀行の中にはいったことがある」ので「わかる」と思いこんでいるかもしれないが、その底には、なんらかの形で教示による学習があると考えらるべきであろう。

## 6. 銀行預金の利子と民間放送の商業

### についての第2次調査

#### (1) 銀行預金の利子について

銀行におかねをあずけると、どうして利子りしがつくのでしょうか。銀行では、おかねをあずかったままにしていれば、すこしもふえませんが、このことから、どうして利子がつくのかをかんがえてごらんください。



第2次調査では、「銀行では、おかねをあずかったままにしていれば、すこしもふえません。」を一つのヒント＝学習経験として与え、その経験によって利子のメカニズムの認識はどのように変容するかをみようとしたのである。

すでに、「研究方法」でも述べたように、このような学習経験を、授業を通さず、調査用紙の上だけで与えようとするには、大きな無理があると思われる。はたして、「学習」経験となり得るかどうかが疑わしい。しかし、いまは、ひとまず、これを一つの学習経験とし、第1次調査と比較してみたい。

第16表

		学年				
回答類型		2	3	4	5	6
a	利子のメカニズムを理解しているもの	2人	19	13	28	27
	あるいは、それに気づいていると思われるもの	1.8%	22.4	15.5	25.5	26.0
b	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	77	57	65	80	62
		69.4	67.1	77.4	72.7	59.6
c	回答が要領を得ず、判読できないものなど	6	2	2	0	0
		5.4	2.3	2.3	0	0
d	回答	26	7	4	2	15
		23.4	8.2	4.8	1.8	14.4

第1次調査結果第7表と比べると、3年では、利子のメカニズムを理解している、あるいは、それに気づいていると思われるものが、急激に増加した。第1次調査では、3人3.5%であり、第2次調査では、19人22.4%である。

ただし、これは、3学級のうち、ある特定の学級のみにもみられる増加なのである。この学級では、なんらかの形で、操作が加えられた、たとえば、第1次調査終了後、第2次調査までの間に、担任教師の指導助言が加えられたというようなことが想定されるのである。それは、回答に用いられている具体例が、「ビルや橋をつくる時お金をかりる」のように共通していることからもうかがわれる。これは、担任教師に責任のある不用意な、あるいは、故意の操作というものではなく、ただ、調査要領の不徹底に原因があるものと思われるのである。あらかじめ、これらの調査は、第1次、第2次というように、一連のものであること、児童の質問等に応じないでほしいことなどを断わったが、このような形で関連をもつ調査であることは示されていなかったから、たとえば、第1次調査終了後などに、児童の質問に答えて、教師が解説を加えるということは、あり得るわけである。

同じようなことが、5年のある学級についてもいえるのである。5年では、第1次調査6人5.6%、第2次調査28人25.5%である。ただ、この学級の回答の中には、3年でみられたような画一的な具体例はみられない。

このような不備な調査結果ではあるが、6年を例外として、3年、5年のその他の学級、また、2年、4年の実態をみると、第1次調査と第2次調査の間には、ほとんど大きな変化がみられないといえる。各学年児童の回答文をみても、ほとんど第1次調査同様である。「銀行は、おかねをあずかったままにしていれば、すこしもふえませんが。」は、児童の銀行預金の利子のメカニズムを解明していく手がかりとはならなかったのである。「このことから、どうして利子がつくのかをかんがえてごらん下さい。」と指示したけれども、ほとんどの児童が、これをヒント＝学習経験とすることができず、このヒントとは別に、第1次調査同様の回答を繰り返したのである。

(2) 民間放送の商業について

BSN新潟放送のテレビやラジオでは、どうしていろいろの商業(こうこくやせんてん)がはいるのでしょうか。「この番組は、〇〇がおおくりしました。」とか、「ていきょうは、□□でした。」ということから、このことをかんがえてごらん下さい。

第2次調査では、「この番組は、〇〇がおおくりしました。」とか、「ていきょうは、□□でした。」とかいうことを学習経験として、商業のメカニズムに気づかせようと試みたものである。銀行預金の利子の場合同様、このようなはたらきかけが、はたして効果的な学習経験といえるかどうかは問題があるが、その結果は、次のようである。

第17表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	商業のメカニズムを理解しているもの、あるいは、それに気づいていると思われるもの	2人 1.9%	9 10.7	13 15.5	27 24.5	32 30.8
	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	85 78.3	59 69.2	70 83.3	81 73.7	66 63.4
c	回答が要領を得ず、判読できないものなど	14 12.6	13 15.4	1 1.2	1 0.9	3 2.9
	無答	8 7.2	4 4.7	0 0	1 0.9	3 2.9

第1次調査の第10表と比較すると、6年を例外として、およそ、各学年とも「商業を理解している、あるいは、それに気づいていると思われるもの」が、増加しているといえる。このことから、いちおう、「この番組は、〇〇がおおくりしました。」とか、「ていきょうは、□□でした。」とかいうことが、先行の学習経験となって、商業のメカニズムを解明することに役立ったといえる。

ある。ここで、「いちおう」と断ったのは、一つは、先行経験と予想との関係をこのように単純に結びつけて理解するのは危険ではないかという理由からであり、二つは、すでに前述したように、これらの調査は、すべて自由記述の形で行なわれているので、児童の記述のあいまいさ、その読みとりにはいった主観を念頭において解釈しなければならないのではないかという理由からである。

## 7. 銀行預金の利子と民間放送の商業的 についての第3次調査

### (1) 銀行預金の利子について

銀行におかねをあずけると、どうして利子りしがつくのでしょうか。銀行では、おかねをあずかると、あずかったままにしないで、おかねをかりたい人にかけてやります。かわりに、かえてもらうときは、かしたおかねよりよけいかえてもらいます。このことから、どうして利子がつくのかをかんがえてごらん下さい。

第3次調査では、「銀行では、おかねをあずかると、あずかったままにしないで・・・」のように、ほとんど、その機能を説明した。これを一つの学習経験として利子のメカニズムを理解させようとしたのである。その結果は、次のようである。

第18表

回答類型		学年				
		2	3	4	5	6
a	利子のメカニズムを理解しているもの	7人	10	18	43	58
	あるいは、それに気づいていると思われるもの	6.2%	11.8	20.2	39.8	56.3
b	一面的・表面的な理解にとどまっているもの、または、誤った理解をしているもの	95	67	71	65	43
		84.1	78.8	79.8	60.2	41.8
c	回答が要領を得ず、判読できないものなど	2	0	0	0	0
		1.8	0	0	0	0
d	無答	9	8	0	0	2
		7.9	9.4	0	0	1.9

第2次調査と比較して特徴的なことは、5、6年で、a 類型の回答が大はばに増加していることである。6年では、すでに半数以上の児童が、このヒントを得た段階で、銀行預金の利子のメカニズムについて、正しい予想をたてることができるようになっているのである。

ここで、第1次調査から第3次調査までのa 類型回答の変動をあらわしてみると次のようである。

第19表

学年 調査	2	3	4	5	6
第1次 調査	1人 1.0%	3 3.5	11 12.6	6 5.6	17 16.5
第2次 調査	2 1.8	19%※ 22.4	13 15.5	28%※ 25.5	27 26.0
第3次 調査	7 6.2	10 11.8	18 20.2	43 39.8	58 56.3

〔注〕 ※は、すでに述べたように、データに疑問のあるもの。

各学年についていえることは、い  
ちおう、ヒント＝学習経験が加えら  
れることにより、次第に正しい予想  
が増加しているということである。  
しかし、そののびは、(3年、5年  
のデータの不備を考慮すると)第1  
のヒントで小はばであり、第2のヒ  
ントでは大はばである。

また、低学年では、第3次調査で  
も、その率は、約10%にとどまっ  
た。低学年では、ヒントを与えても  
いまだ、それを受け入れるレディネ

スがないと考えられる。設問には、「このことから・・・をかながえてごらん下さい。」と指示したに  
もかわらず、このヒントとは無関係に自分の予想をたてているものが多いことは、すでに述べてきた。

なお、正しい予想をたてているものについても、ことば、文の上からだけでは、はたしてどの程度の  
理解をもっているかは判然としない。銀行の貸付け、銀行からお金を借りるということについては、実  
感をもって理解するということは、ほとんど不可能なことと思われるので、きわめて概念的な理解にと  
どまっているものと予測しないわけにいかないのである。

(2) 民間放送の商業について

B S N新潟放送のテレビやラジオでは、<sup>ピーエスエス</sup> どうして、いろいろの商業(こうこ  
<sup>ほうそ</sup> くやせんでん)がはいるのでしょうか。<sup>エヌエッチケイ</sup> NHKでは、テレビをもっている家からおかね  
をとりますが、B S Nではとりません。このことから、どうして商業がはいる  
のかをかながえてごらん下さい。

第3次調査では「NHKでは、テレビをもっている家からおかねをとりますが・・・」のように、民  
間放送とNHKとの違いを示し、これを手がかりに、そのメカニズムに気づかせようとした。手がかり  
とはいっても、ほとんど、あとは、表現上の問題しか残らないくらい解説したものである。その結果は、  
次のようである。

第20表

回答類型	学年				
	2	3	4	5	6
a 商業のメカニズムを理解して いるもの、あるいは、それに気づいて いると思われるもの	2人 1.8%	10 11.8	13 14.6	29 26.9	31 30.1
一面的・表面的な理解にとどまってい	110	72	76	78	70

b	るもの、または、誤った理解をしているもの	97.3	94.7	85.4	72.2	68.0
c	回答が要領を得ず、判読できないものなど	0	0	0	0	0
d	無答	1	3	0	1	2
		0.9	3.5	0	0.9	1.9

第2次調査との比較で見れば、a 類型は、各学年とも、ほとんど変化がないということがいえる。ヒントは、ヒントにならなかった。しかし、銀行預金の利子の場合も同様であるが、その内容には、いくらか質的な変化があるのである。たとえば、a 類型の6年についていえば、第2次調査では、半数以上の児童が、そのメカニズムに「気づいている」と思われる段階にとどまっていたのであるが、第3次調査では、ほとんどの児童が、「理解している」と思われる段階に進んだのである。

a 類型の回答の変動について、第1次調査から第3次調査までを示すと次のようである。

第21表

学年 調査	2	3	4	5	6
第1次 調査	1人 1.9%	2 2.4	6 6.9	9 8.3	30 29.1
第2次 調査	2 1.9	9 10.7	13 15.5	27 24.5	32 30.8
第3次 調査	2 1.8	10 11.8	13 14.6	29 26.9	31 30.1

この表からいえることは、最初にヒントを与えた第2次調査では、6年を除き、かなり大きな変化を表わしたが、次にヒントを与えた第3次調査では、ほとんど変化がなかったということである。

これらの考察には、当然、ヒントの客観性、最初のヒントと次のヒントとの関連性や質的發展段階などが問われなければならないので、これらの点がいまいであるこのたびの

調査では、これ以上の分析をひかえなければならないと考える。このことは、たまたま、調査を重ねるたびに、正しい予想が増加していった銀行預金の利子の場合についてもいえることである。

## 8. ま と め

調査結果の考察は、それぞれの項において、その都度行なってきたが、ここに、あらためて当初の「研究目的」に掲げた研究の視点と対応させながら略述すれば、およそ次のようである。なお、本稿では、「銀行預金の利子」と「民間放送のコマーシャル」を対比するのが目的ではないが、便宜上、この二者を関連させて述べることにする。

(1) はたして、児童は、その問題解明のための予想をたてることができるであろうか。

ここで取りあげた銀行預金の利子と民間放送のコマーシャルの問題に限っていえば、児童に、より身近な社会的事象は、後者である。そのことがらについての興味・関心も、すでに調査の結果と考察で述べたように、後者の方が、より大きい。そして、やはり、身近な問題、興味・関心のある問題の方が、問題解明のための予想がたてやすい。たてられた予想は、両者とも（2年銀行預金の利子の場合と6年民間放送のコマーシャルの場合を除き）その半数以上が、そのメカニズムは不明なまま、一面的・表面的な理解にとどまっているか、または、それと関連のないことがらを結びつけたりして誤った理解をしているかなのである。

児童の予想は、「ぎんこうは、お金をあずけるとお礼に利子がつく」とか、「銀行の入たちのサービスだと思う」とかいうように、いわば、直観的・感性的なものであって、したがって、「思いつき」の域を出ていない。このような予想は、社会的な事象のメカニズムを解こうとするに当たっては、真の予想とはなり得ない。しかし、この段階にとどまらず、この「思いつき」を手がかりにして、そのメカニズムを解明していくことができる場合のあることを見落とすわけにはいかない。

(2) 児童が予想をたてるときには、先行経験がどのように関与するであろうか。

銀行預金の利子と民間放送のコマーシャルとでは、児童の生活経験の質に多少の違いがあり、したがって、前者では、直接的・間接的经验によって予想をたてるものが、各学年（2年を除き）約30%～35%あったのに対し、後者では、直接的経験によって予想をたてるものはなく、間接的な経験によっているものが、各学年（6年を除き）わずか約4%～7%であったのである。逆に、自分の想像で答えているものが、前者では、各学年約37%～55%であるのに対して、後者では、約78%～91%になっているのである。

このように、その社会的な問題が、児童に対して、どのような関係にあるかによって、その問題を解くときに、先行経験の関与の仕方は異なってくるのである。

また、先行経験によって予想をたてることができても、その予想が、どのようなものであるかが問題である。銀行預金の利子の場合でも民間放送のコマーシャルの場合でも、直接的・間接的先行経験が、必ずしも正しい予想に結びついていないことを示した。しかも、そのことは、当然のことであって、多く、「問題」として解明を迫られているものは、社会事象の底にあるメカニズムであって、これは、経験などによって理解される性質のものではないのである。

(3) 問題解明のために、ある一つのヒントを与えた場合、それを学習経験として予想に生かすことができるであろうか。

この調査では、銀行預金の利子に対するヒントは、それを与えなかったときと大きな違いのない結果となり（いくらか増加した）、民間放送のヒントの場合は、ヒントが予想にかなりの影響を及ぼした。しかし、この両者は、前述のように、社会事象としての児童に対する問題の性質がいくらか異なる上、両者に与えられたヒントも、ヒントそのものが同質のものであるかどうか、大いに疑問であるから、輕輕に論ずることができない。

どのような性質のヒント（解明されなければならない社会的な問題のメカニズムに対しても、児童の発達段階に対しても）が与えられるかによって、それが、一つの学習経験となって予想に関与するかどうかは異なってくる。

(4) ヒントを、一回、二回と重ねていった場合に、予想は、どのように変容していくであろうか。

上述のように、ヒントそのものに、いろいろのむずかしい問題があるので、一概に論ずることはできないが、この調査では、銀行預金の利子の場合、第1のヒントでは、あまり変化がなく、第2のヒントで、かなり顕著な変化がみられ、民間放送のコマーシャルの場合、これと逆になった。つまり、第1のヒントでは、かなりの変化があらわれ、第2のヒントでは、ほとんど変化がなかったのである。この場合、当然、両者それぞれについて、第1のヒントと第2のヒントの関連性や質的發展段階などが吟味されなければならないのである。

このような事由から、結論を急ぐことを慎まなければならない。

## あ　と　が　き

本稿の終わりに当たって、次のことがらを、反省の意味も含めて書きとどめておきたい。これらの多くは、すでに、本稿の各所において、繰り返し述べたことからでもある。

ア 標記のような研究問題を解明するために、諸種の事情から、やむなく調査用紙による自由記述法を採用したのであるが、これは予想以上に大きな無理があった。このことは、本稿において、決定的といえる欠陥であり、その結果、ほとんど結論といえるものを導き出すことができずに終わったのである。

イ この研究問題を解明するため、どのような社会的な事象を素材とすべきか愚考した結果、「銀行預金の利子」「民間放送のコマーシャル」などを取りだしたが、これらのわずかな例からは、あまり多くのことをいうことができない。そうかといって、取りあげる素材にも限度のあることである。そこで、むしろ、一学年一単元について詳細な分析を試みるというような方法のほうが、効果的ではなかったかとも思われるのである。

ウ 諸種の制約の中で行なった調査ではあったが、さらに、ひとりひとりについて追跡調査などを試みることができたならば、いくらかは有益なものとなり得たであろうと思われるのである。「銀行預金の利子」で、比較的回答が多かった「ぎんこうは、お金をあずけると、お札に利子がつく」に例をとっていえば、その論理の不足や矛盾に気づかせた後、児童は、それを解明するために、再び、どのような予想をたてるかを調査することができるであろう。当然、その次の、さらに進んだ段階での予想も問題になるであろう。このように、それぞれの段階で、児童の予想のたて方などを分析し、考察していくことができるならば、研究問題も、もう少し明解に解明されたであろうと思う。しかも、このような意味での「予想」こそ、真に発見的創造的学習で問題とする「予想」となるであろうと思う。

エ 学習経験としてのヒントは、それぞれの段階で一つしか与えられなかったが、いくつも用意することができるならば、どのような性質のヒントが、予想に関与するかといった、より深い研究にまで進むことができたであろうと考えられる。ただし、このような意味でのヒントを、数多く用意することが実際は可能であるかどうかは問題ではある。

オ 調査問題作成に当たっては、やはり、選択肢法を用いるべきではなかったかという反省のほかに、「たぶんこうではないか」という回答を区別するように設問すべきではなかったかということが反省される。「たぶんこうではないか」という答もいっしょに書かせようとしたのは、回答の文が「・・・と  
思」のように表現されていれば、「たぶんこうではないか」という自分の想像によって回答したものと判別することができるという判断によったものである。しかし、その結果の処理に当たっては、かならずしも期待したような判別ができず、したがって、主観のはいる余地がかなり大きくなってしまった。

カ 先行経験との関係を分析した第11表以後の結果の処理に当たっては、やはり、第1次調査の段階で、すでに、そのメカニズムを「理解している」状態にあるものと、そうでないものとを区別してしまふべきであったと反省している。この区別をつけなかったことは、本稿の論旨を、終わりまであいまいなものにする結果になった。最初の段階でこれを区別し、「理解しているもの」は、その理解の内容によっては、この分析の対象外とし、もっぱら、「その他のもの」について、ヒントを与えた場合の予想の変化などを分析し考察すべきでなかったかと思う。この処理を誤ったため、「回答」が即「予想」として取り扱われるようなあいまいさが生まれたのである。

本稿は、発見的・創造的学習についての第1年次の研究であり、まだ、その緒にもつかない状態である。今後は、上述のような問題点、反省をよりどころにして研究を整理し、いっそう深めなければならぬと思っている。

この調査研究に当たっては、新潟市内のA小学校に全面的なご協力をいただいた。校長先生はじめ諸先生がたに、こころから感謝の意を表したい。なお、この調査研究を担当し執筆したのは、本間道夫である。

### 参 考 文 献

この調査研究に当たって、直接参考とした文献資料はない。間接的に参考としたものをあげると次のようである。

- 今田 恵 「心理学」 岩波書店  
青木誠四郎 「心理学」 朝倉書房  
広岡亮蔵 「教育内容の現代化」 明治図書



- カルル・ダウンカー著 小見山栄一訳 「問題解決の心理」 金子書房
- 「講座・創造性の教育1 創造性の基礎理論」 明治図書
- 「講座・創造性の教育3 創造性の計画と実践」 明治図書
- 「特集・探求学」 リクルート '68-7 日本リクルートセンター
- 「特集・創造性を養う」 児童心理 第246号 金子書房
- 「特集・授業における発見と創造」 現代教育科学No91 明治図書
- 「特集・発見学習をどうとり入れるか」 授業研究No34 明治図書
- 「特集・創造性開発の授業方式」 授業研究No42 明治図書
- 「特集・社会科における『思考と経験』」 社会科教育No38 明治図書
- 「特集・創造力を伸ばす教育」 教育経営Vol.5-2 日本文化科学社
- 「特集・創造力の育成」 中等教育資料No236 文部省